

「地域密着カンパニー」全国展開



ジェイリース CEO 代表取締役社長
中島 拓氏

- ①サッカー
- ②2021年の東京
- ③至誠通天

東京証券取引所マザーズ上場から1年半。責任と使命感をより強く感じ、奮い立つ日々だった。単身高齢世帯の増加などを背景に、家賃債務保証への認知度が高まっています。昨今、順調に業績を伸ばし、今期は第1四半期で、前期の上半期の数字をクリアした。「たくさんの方からご支持いただいた」と振り返る。

昨年の通常国会で、契約・債権分野を大幅に見直す改正民法が成立。賃貸借契約の連帯保証人に関する条項も大きく変わり、家賃債務保証業へのニーズはより高まっていくことが予想される。

国土交通省の最新データでは、既に全国の民間賃貸住宅の約7割が家賃債

務保証会社を利用。増加する単身高齢世帯に対応するため、今後は金銭的保証だけでなく、住まい全般への支援も求められる。

ジェイリースは専門の業者と提携し、高齢者の見守りや駆け付け、配食などのサービスを拡大させていく方針。「全国でサービスを展開するためには、各分野の企業と業務提携する必要があります。上場により知名度と信用力が上がってきたことは大きなプラスだった」。上場で得られた信頼を力に、「住まいの総合商社」を掲げ、歩みを進める。

昨年は北海道、岡山県、茨城県に支店をオープン。さらに向こう3年で16支店を展開する計画だ。「大分だけではな

く、全国で地域に密着できるカンパニーづくり」を推進していく。
他にも、人材開発のレベルアップ、スポーツ実業団チームの立ち上げなど「やるべきことはどんどん増えている」と表情を引き締める。大分に根を張る企業として、今後も本社を東京に移すつもりはない。大分トリニータの支援は今季も継続する。地域密着の姿勢で挑戦を続け、さらなる高みを目指していく。

趣味のマージャンは4段の腕前。各地の文化サークルで「健康マージャン教室」の講師を務めていたこともある。「時間ができたら、また地域の高齢者の皆さんに健康マージャンを教えて回りたい。ボケ防止に効くんですよ」と目を細めた。



今季も大分トリニータを支援